

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2022年3月15日

事業所名：メルシーハウス

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	基準を満たした指導訓練室等のスペースを確保している。	はい:10名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:1名	定期的に行う面談等で事業所にお越しいただいた時に事業所内の様子を見てもらっているが、コロナ禍で直接の面会が出来ていない為把握できないケースも起こっている。ホームページ等で事業所内の様子を公開する。
	2 職員の適切な配置	人員基準を満たした職員を配置している。	はい:10名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:1名	
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	トイレは正面奥で場所が分かりやすく、勉強机を配置し、学習スペースであることを分かりやすくするような工夫をしている。	はい:9名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:2名	
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	1階と2階に分かれ、静かに過ごしたい児童にはフロアを移動するなどの配慮を行っている。	はい:10名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:1名	
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎日の日報に本日の活動について、PDCAサイクルに基づいた記録を行っている。活動内容を見直し、職員同士で相談する機会も設けている。	/	活動以外の場面でもPDCAサイクルを用いて業務改善を進めていくようにしていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者委員会を設置し、苦情対応等の窓口を設けている。	/	外部評価においては巡回支援、実地指導がメインとなっていたので、第三者に外部評価をしていただく機会を作っていく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	定期的に研修を行い、職員の資質の向上に努めている。	/	研修の機会を増やし、さらなる資質の向上に努める。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	定期的に面談を行い、子どもや保護者のニーズや課題を把握し、それに基づいた個別支援計画の作成を行っている。	はい:10名 どちらともいえない:1名 いいえ:0名 わからない:0名	定期的な面談以外の場面でも、お困りの点はいかお聞きし、ニーズや課題の把握に努める。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別支援、集団支援の両方の場面について支援計画を作成し、それらを適宜組み合わせて実施している。	/	集団活動に参加してもらえよう、子どもの状況やニーズに合わせて柔軟に対応していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	支援内容は目的と具体的な内容を記載し、確認して頂いている。子どもや保護者の要望に合わせて適宜支援内容変更している。	はい:11名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名	よりわかりやすく具体的な支援内容の記載に努める。定期的にニーズや課題を把握していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供 （続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画に基づき、適切な支援を実施するよう努めている。常に個別支援計画が確認できるよう管理している。	はい:11名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名	より良い支援の実施に努め、保護者様からは日々のサービス提供記録や面談にてご意見を頂戴する。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	制作活動の内容や、お買い物体験の行先、グループ分けなど、ミーティングの時間に職員間で相談を行ったり、毎日集団活動を実施できるよう、活動プログラムの相談を行っている。		職員一人ひとりに活動プログラムの立案や意見を求め、チーム全体としての活動プログラムの立案へと繋げていく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は学校やご自宅までの送迎を行い、またお仕事の都合に合わせて、送りの時間を調整している。長期休暇中はご要望に合わせて、早い時間でのお迎えや、昼食の提供、お出かけ等のイベントを用意している。		ご利用希望の日にちや時間帯をお聞きし、保護者様の負担を減らしていくよう努める。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	毎日集団活動プログラムを実施し、同じ活動ばかりにならないよう工夫している。	はい:10名 どちらともいえない:1名 いいえ:0名 わからない:0名	新たな活動プログラムを作り、固定化しないよう色んな活動プログラムを織り交ぜながら実施していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日支援開始前にミーティングを行い、その日の来所児童の確認、支援内容の確認、役割分担についての確認を行っている。		支援方法についてわからない所や、困っている事を職員に聞き、職員全員で考えるようにする。送迎中での出来事等、特定の職員がメインで関わっていることについての情報共有も行う。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	毎日支援終了後にミーティングを行い、その日の活動や児童の様子を振り返ったり、翌日の活動内容や支援内容についての確認を行っている。		
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	サービス提供記録にて支援に関する記録を行い、その日の様子や支援の上で気になった事の特記事項記載表に記録し、支援の検証や改善を行っている。		全職員が目を通せるよう、すぐに確認できる場所に保管し、情報共有していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	面談前に職員が集まり、支援や計画の内容について見直しを行い意見を集めた上で、面談を行っている。		ミーティングでは、面談月の対象の子どもだけでなく、その他の子どもについても適宜モニタリングを行っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議へ参加し、学校や他事業所の職員と連携を取っている。	必要な場合には直接指導にあたっている職員も参加し、意見交換を行う。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	学校と連携を取り、子どもの様子を逐一報告し合う形を取っている。学校への送迎時には、直接話をする事で、情報共有を行っている。	送迎以外の場面でも綿密に連絡を行い、一体となって支援できるようにしていく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	保護者様の指示に基づいててんかん発作の対応のマニュアルを作り、有事の際はすぐに連絡できるようにしている。服薬中の薬の情報を聞き、対応の方法を確認している。	有事以外の場面でも対応について医療機関との連携を図っていく。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	児童発達支援事業所や学校からの紹介で、事業所に見学に来られる事があり、その際に支援内容の情報共有を行っている。	事業所側からも働きかけ、円滑な移行支援に努めていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	保護者様や学校を通じて、それまでの支援内容についての情報提供をして頂いている状況である	事業所側から連絡を取り、それまでの支援内容についての情報提供を行う。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	障害者支援センターの職員の方と連携を取り、子どもの情報共有や、会議の計画等を行っている。	職員の資質向上のため、専門機関での研修の受講を促進していく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	コロナ禍ということもあり、障害のない子どもと活動する機会は提供できていない。買い物やお出かけ等を定期的実施し、一般の方々がいる中で活動する機会を設けている。	はい:3名 どちらともいえない:1名 いいえ:1名 わからない:6名 コロナ禍で機会の提供が難しい所もあるが、短時間での交流やオンライン等を活用しての交流も考えていく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	コロナ禍ということもあり、地域住民を招待する機会は提供できていない。地域の行事に参加し、そこで地域住民の方と交流する機会を設けている。	コロナ禍で機会の提供が難しい所もあるが、短時間や小規模など、感染状況を鑑みながら取り組んでいきたい

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	重要事項説明書にて説明を行っている。その他質問があった際には迅速丁寧な対応を心掛けている。	はい:11名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名	記載内容や説明に不明な点が無いか、説明のたびに確認する。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	コロナ禍の為電話での面談が主になっているが、お互いに計画書を準備しながら説明をさせて頂いている。	はい:11名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名	保護者様がすぐに計画書を準備できない可能性もあるので事前に確認を行い、再度お渡しするなど、柔軟な対応を行う
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	電話面談にてお子様との関わりで困っている事や、相談したいこととお聞きし、声かけの仕方や対応について一緒に考えるようにしている。	はい:8名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:3名	電話面談だけでなく、1つのプログラムとしてペアレントトレーニング取り入れていこうにしたい。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	サービス提供記録を通して、保護者様の意見や考えを聞いたり、事業所側からの視点もお伝えし、情報の共有や共通理解に努めている。	はい:11名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名	サービス提供記録以外でも保護者様と連絡を取り、情報の共有や共通理解に努める。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	面談やサービス提供記録で頂いたコメントをお返しする形で、保護者様からの相談に応じている。	はい:11名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名	悩みを相談しやすいよう、LINE等を活用したり送迎でお会いする時にお話をしたりと、コミュニケーションを取る機会を増やしていく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	コロナ禍の為保護者会が実施出来ない状況にある。	はい:3名 どちらともいえない:3名 いいえ:2名 わからない:3名	コロナ禍で保護者会の開催が難しい状況にあるが、オンライン開催などの柔軟な対応を行う。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情に対する窓口を設け、対応を行っている。事業所に相談しにくい内容については、第三者委員会や神戸市への報告も視野に入れ、その連絡先を重要事項説明書に記載している。	はい:9名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:2名	苦情の事について不明な点が無いか確認し、わかりやすく説明するなど丁寧な対応を行う。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	言葉での意思疎通が難しい子どもに対しては、ジェスチャーやイラストを使った視覚支援を行っている。	はい:11名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名	障害の特性に合わせて柔軟に意思疎通の方法を変えていく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	ホームページやFacebook、インスタグラムなどのSNSを用いて、情報を発信している。	はい:8名 どちらともいえない:2名 いいえ:0名 わからない:1名	更新をこまめに行い、タイムリーな情報が提供できるようにしていく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	第三者に漏らすことの無いよう、厳重に取り扱っている。また情報の開示が必要な時は予め保護者様に確認と了承を頂いている。	はい:11名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名	連絡帳の入れ違いや、荷物が混ざったりしないよう、厳重に管理を行う。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルを策定し、職員や保護者に説明を行っている。	はい:10名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名	定期的にマニュアルの再確認を行い、変更があった場合には、再度説明を行う。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的に避難訓練を実施し、避難経路や備品の確認を行っている。	はい:10名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:1名	利用されている子ども全員が訓練を実施できるよう、訓練の機会を増やす。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待防止の為の研修を定期的実施し、虐待についての知識を深めている。		定期的な研修以外でも虐待関連のニュースや、情報が入る度に虐待についての話し合いを行う。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	止むを得ず身体拘束を行う場合の条件を確認し、個別支援計画にて事前に保護者様に説明し、実際にそのような対応を行った場合は、保護者様に連絡している。		身体拘束についての研修を虐待防止の為の研修と合わせて行い、職員の質の向上に努める。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	アセスメントシートにて食物アレルギーの有無を確認し、適切な対応を行うようにしている。		昼食会やおやつ作り等で、アレルギー項目のあるものを使用しないよう、事前に確認を行う。おやつで、小さいものやグミやせんべいなど、嚥下や咀嚼の問題で、食べられない物を予め把握しておく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例を研修にて情報共有し、事故防止に努めている。研修資料にヒヤリハット事例のレジュメを保管している。		研修の際にはその内容に沿ったヒヤリハットの事例を探し、共有していく。